何でもできる天才。
鍋島（なべしま） 茂義（しげよし）

先見の明を持ち、いち早く西洋の文明に着目した武雄領主。その知見は幅広く、砲術、科学、天体、芸術など多岐に渡る。

若い頃から才能がキラリ

1800年、武雄領主の鍋島茂順（しげより）の五男として誕生。23歳の若さで佐賀藩の請役（筆頭家老）に抜擢されました。

政治や経済を補佐、運営する家老の中でも最も位が高かったのが請役で、今で言うと会社の重役のような役割でした。

茂義は早くから請役を任されたことから、皆が認める有能さが伺えます。

◀鍋島茂義肖像画（武雄市蔵）

現代日本創設の立役者！

茂義は若い頃から西洋の進んだ文明に接しました。そこで従来より飛距離が長く、性能の高い西洋の大砲に触れました。

当時鎖国という時代の中で、約200年発展が見られなかった日本の武器と、西洋の先進的な武器との差を埋めようと、茂義は日本の中で最も早く西洋砲術の研究に取り組みます。

まず、西洋砲術研究の第一人者である長崎の高島秋帆の下に家臣の平山醇左衛門を入門させます。そして武雄でも西洋式大砲の鋳造を開始し、それを使用した本格的な軍事演習にも励みます。

その取り組みは佐賀藩主鍋島直正にも注目され、直正の面前で武雄の砲術を披露します。

直正はその技術に感心し、佐賀藩でも西洋の軍事技術を取り入れる動きが始まります。

日本での西洋砲術の導入は佐賀が始まりとされることから、その基礎は武雄が築いたと言えます。

佐賀藩での西洋式大砲の使用は先進的で、のちの明治維新の決め手となった戊辰戦争では、さらに飛距離の長いアームストロング砲を使用し、新政府軍の勝利に大きく貢献しました。

いち早く最新の砲術に注目し、西洋に目を開いた茂義は、現代の日本の姿を作り上げた人物と言えるでしょう。

▲写真：アームストロング砲【復元】（武雄市蔵）

幅広い知識と才能は まるで武雄のダヴィンチ！

西洋砲術の研究に取り組む中で、西洋の様々な文物に興味を抱いた茂義は、西洋の学問を学ぶために数百冊の蘭書、そして地球儀や天球儀、測量器具や時計、薬品などを購入し、武雄にもたらしました。

また、長年の蘭学研究の実績を買われ、佐賀藩から蒸気船建造の責任者にも任命されました。

知的好奇心が旺盛なだけでなく、芸術にも長けており、皆春斎（かいしゅんさい）の名で多くの絵画も残しています。

まさに武雄のダヴィンチと言えるような存在ではないでしょうか。

◀理科学用ガラス器具（武雄鍋島家資料）

◀茂義作のぼたん図（武雄鍋島家資料）

▶▶Pick up

鍋島茂義の足跡をたどってみよう！

御船山楽園
（武雄町大字武雄 4100）

御船山の絶景を背景に、茂義が約 3 年の歳月をかけて 1845 年に完成させた、壮大な池泉回遊式庭園。

武雄市文化会館
（武雄町大字武雄 5538 番地 1）

茂義の別邸。西洋から取り寄せた植物が栽培された。また、武雄で製造された西洋式大砲も発見されている。

西洋砲術研究の先駆者。
平山（ひらやま） 醇左衛門（じゅんざえもん）

鍋島茂義に見出され、先進の砲術研究を行なった有能な家臣。佐賀藩の近代化に尽くしながらも、その末路は涙をさそう。

最新鋭プロジェクトの リーダーに抜擢！

1809年に誕生。茂義の家臣であり、可愛がられていた平山は、平山を逆さから呼んで「山平」というあだ名を付けられるほどでした。

平山は1832年に茂義の命により、当時西洋砲術の第一人者であった、長崎の高島秋帆の下で西洋式の砲術と軍事調練を学び始めます。

これは佐賀藩の中でも初めてのことで、のちに佐賀藩の砲術は平山の指導によって発展していきます。

◀高島が茂義に献上した日本初の西洋式大砲・モルチール砲（武雄鍋島家資料）

日本の砲術研究を 陰で支える日々

平山は現在の長崎市大村町の高島の屋敷で修行を開始します。その後、茂義も高島の門下に入門し、高島と茂義を繋ぐ調整役として平山は大きな役割を果たしたと言われます。

こうして当時では最新の西洋砲術プロジェクトが、茂義と平山を基軸として進んでいきます。

高島の下での修行からわずか2年で、茂義と平山は現在の武雄高校敷地内の工場で大砲の鋳造に取り組んだと言います。

失敗を繰り返しながらも、のちには見事に成功し、武雄で初めて西洋式大砲を鋳造し、訓練を開始しました。

その後、幕府が西洋砲術を採用する契機となる1841年、高島秋帆が江戸徳丸原で行なった大砲の実射演習にも参加し、この頃から本格化する佐賀本藩への西洋砲術の導入にも指導的な役割を果たしました。

その頃の平山の生活は過酷そのもので、月の半分を佐賀で、残りの半分は武雄での砲術研究に費やしました。家でも安らぐ時間もなく、常に研究で頭を悩ませており、過労により、心身ともに疲れ果てていたとの記録も残っています。

▲写真：平山が砲術を学んだ書籍（武雄市蔵）
西洋の城攻めの方法が記される。

絶頂期からまさかの暗転！

平山の師匠である高島は、徳丸原の演習がきっかけで、幕府からもその研究を奨励されます。しかしその活躍をねたむ人々から謀反の疑いをかけられ投獄されたことで、平山の身にも暗雲が立ち込めます。

それまで身を粉にして研究に打ち込んだ平山ですが、高島に関わり砲術研究を進めたとして、平山に罪が着せられ、武士としては屈辱的な打ち首の刑となったのです。

武雄のため、佐賀藩のため、そして将来の日本のために自らを犠牲にしてきたにも関わらず、何の報いもないどころか、待っていたのは残酷な運命でした。

武雄が生んだ偉人の中ではあまり知られない人物ですが、その努力と功績は武雄、そして日本の歴史上見逃してはならない大きな存在でしょう。

▶▶Pick up

平山醇左衛門の足跡をたどってみよう！

羽根木神社
（東川登町南永野）

この場所から、現在の保養村がある方角に向けて、大砲を撃つ演習を行っていた。

平山醇左衛門の墓地のある丘
（山内町鳥海）

平山が生涯の大半を過ごした山内町の見晴らしの良い丘に墓地がある。入口にある看板から約100mほど登った場所。